

## ごあいさつ

滋賀県立図書館には年間30万人の人々が訪れ、本や資料を利用されています。図書館では、利用されるみなさんに本をお貸しするだけでなく、本に関する相談や身近な疑問、知りたいことを調べるお手伝いをしています。本館では、所蔵している資料を利用者に広く知ってもらい、役立ててもらえるよう、最近のできごとや季節の話題など、様々なテーマで資料の展示も行っています。

昨年度からは、図書館のある文化ゾーンの各施設について、利用者に理解を深めていただこうと、文化ゾーン内の県立近代美術館や埋蔵文化財センターなどの施設、機関が連携、協力して、夏休みや秋の文化の日に、利用者に直接それぞれの施設、機関の仕事を実際に体験してもらう「文化ゾーン探検隊」を実施して、多くの方々の参加を得ています。

このたび滋賀医科大学附属図書館と滋賀県立図書館が共催して「湖国の医家一彦根藩河村家旧蔵書展」が開催できますことは、文化ゾーン内での取り組みがさらに外に広がり、近隣の機関との連携、協力した事業が一層すすむものと考えております。

今回の資料展では、滋賀医科大学附属図書館が所蔵される「河村文庫」を中心とした滋賀の医学史に関する学術資料とともに、当館が所蔵する江戸時代の彦根藩の町絵図や彦根出身の医師の著作等をあわせて展示いたしました。両図書館の貴重な資料をともに展示することで、時代背景や当時の町の様子などが補完され、資料展をご覧になる皆様にはよりわかりやすい資料展示になったのではないのでしょうか。日頃あまり目にすることができない貴重な資料も数多く展示されていますので、是非ご覧ください。

また、滋賀県立図書館でも、今年度より所蔵する貴重資料のデジタル化を「近江デジタル歴史街道事業」として進めています。滋賀県は「道の国」としていつの時代も我が国の歴史の舞台となり、多くの人や物が往来することで貴重な文化遺産が伝えられてきた地ですが、県立図書館においても、多くの絵図、古文書等の文化遺産を所蔵しています。これらの文化遺産を県民の皆様幅広く活用していただけるよう、江戸から明治初期にかけての「近江国絵図」（県指定文化財）を高精細画像によりデジタル化を行い、ホームページ上に公開しています。さらに、古文書、絵図、絵葉書、写真等についても順次デジタル化を進めており、毎月、滋賀県の歴史に関わるテーマで「今月のデジタルアルバム帖」としてホームページに掲載しています。

県民の皆様には、滋賀医科大学の画像データベースとあわせて、当館のデジタル化された貴重資料についてもインターネットをとおして広く利用していただき、先人の築いてきた豊かな文化に触れ、滋賀の新しい魅力を発見していただける機会になればと考えています。

滋賀県立図書館長  
梅 沢 幸 平